

●6年制学科のカリキュラムの特色

1～6年次を通して、薬学を理論と実践の両面から系統的に学べる理想的なカリキュラムを整えています。低学年次では自然科学などの薬学の知識だけでなく、人文・社会・情報科学、外国語などを幅広く学びます。少人数グループでの討論や体験学習も盛り込み、医療人として必要な態度を養うための教育にも取り組んでいます。これらをベースとして、4年次からは薬剤師実務に近い実践的な学びが本格化し、5年次での実務実習、5,6年次での研究室における卒論研究に臨みます。さらに6年次には、国家試験に向けて万全の体制で、みなさんの夢を実現するために全力でサポートします。

●病院や薬局の実務実習 特色や取り組み

本学の実務実習の特徴は、実習施設毎にコーディネーターがいることです。コーディネーターは教員が務め、実習施設の指導薬剤師と連携して実習生をサポートし、質の高い薬学実務実習教育を推進しています。

●病院実習先・薬局実習先

主な病院・診療所 東京医科大学病院・東京通信病院・杏林大学医学部付属病院・がん研究会有明病院等 約85か所

主な保健薬局 八王子薬剤センター薬局他 約200か所

●アドバンスト（臨床）実習

回答なし

●多職種連携教育の具体的な内容

薬剤師には十分な知識と技量の他、チーム医療の推進に必要な他の医療職種に対する理解と職種間コミュニケーション能力を磨くことが求められますが、本学では、他の医療系学生及び多職種への理解と薬剤師の役割及び責務について認識を深めることを目的に、東京医科大学医学部医学科・看護学科と連携して多職種連携教育（Interprofessional Education: IPE）ゼミナールを2年次後期に開講しています。症例ビデオを鑑賞し、多職種連携について各職種の意見交換を行ったり、看護シュミレーション、訪問診療シュミレーション等を行います。

●多職種連携教育を行う医療施設名

東京医科大学病院

●薬剤師国家試験への取り組み

6年次では学部を挙げての本格的な対策を実施、国家試験に十分に対応できるように配

慮されています。必要単位を修得し、2回の総合薬学演習試験（6年間の総まとめとなる試験）に合格すればおのずと薬剤師国家試験をクリアできるだけの十分な学力が身につきますが、本学では万全を期すため、特別講義や模擬試験の実施などバックアップ体制を整えています。7つの試験領域について演習を中心とした授業を通して、4年次までのカリキュラムで学んだ内容の再確認を含めて学力を高め薬剤師国家試験合格レベル以上の実力が身につくよう取り組んでいます。

6年次は、課題研究（卒論）のまとめや更に高度な薬学理論や薬学実践を取り入れた薬剤師国家試験に向けての学習指導から本格的にスタートします。課題研究のまとめを終え、夏期休暇中は各自学習を進め、夏期休暇明けには復習のための試験を実施し、各自の到達状況を把握します。後期は各卒論教室や薬学教育推進センターでの学習プランに沿った指導に加え、実力に応じたきめ細やかなサポートも行われ、弱点補強や実力アップのための補講や模擬試験、直前集中ゼミなども逐次開催されるので、自分の学力を測りながら効率的に学習することができます。より高度化、複雑化した必須問題や理論問題および実践問題に対応し、6年制カリキュラムを基盤に充実した教育プログラムにて指導を行います。

●卒業研究について

4年次から卒論教室・研究室・講座・センター（以下「卒論教室」）に配属され、教員の指導のもとで大学院生と共に実験研究をしたり、調査をもとに研究を行っています。配属の際、実験研究コースと調査研究コースのどちらかを選択し、それぞれの学習プログラムで総合的に薬学を学びます。

実験研究コースでは、「くすり（物質）」を中心に「ヒト」、「生命」、「疾病」、「健康」などに関する無限のテーマについて自ら選び、実験研究を行います。このコースに所属する学生は、おもに、卒論教室での実験とデータ解析などを通して、総合的に薬学を学び問題解決能力と専門性を高めます。その成果は卒業論文としてまとめられ発表されます。

調査研究コースでは、卒論教室で教員の指導を受けながら、薬学に関する調査研究を行います。また、同時に「医療の最前線」プログラム（医療に関連する様々な分野の講師が、最先端の医療について分かりやすく講義します）やPBLチュートリアル（問題解決型学習を少人数で行う教育方法。学生はチューターの助言を得ながら個々の問題解決に必要な事柄を自ら学習します）も受講して総合的に薬学を学習しま

す。研究のプロダクトは卒業論文としてまとめられ発表されます。

●4年制学科の教育目標とカリキュラムの特色

該当無し

●入試に合格するためのアドバイス

英語

長文読解では、英文全体の論旨を正確に理解できるかどうかを見ている。科学的な主題を扱った英文を中心に、幅広く様々な分野の英文を読んでおいてください。試験時間が60分ですので、速読の練習をしておくことも大切です。発音問題、文法問題、整序問題は、高校で習う基礎的な内容を問題にします。基本的な規則を丁寧に学習し、例文全体を何度も音読し書いて覚えるよう心がけてください。

数学

複数分野にまたがる融合問題も出題しますので、表面的な公式や解き方の暗記に終わるのではなく、土台となる考え方をしっかりと理解することが大切です。その上で、基礎から標準レベルの問題演習をしっかりとこなしてください。全範囲からまんべんなく出題しますが、なかでも薬学を学ぶうえで必須の指数・対数や微分積分、確率を重視しています。パターン化されていない問題にも動じないだけの基礎学力と思考力を身につけて試験に臨んでください。

化学

基本となるのは教科書ですので、まずは教科書の内容をよく理解し、そのうえで基礎から標準レベルの問題を繰り返し解いて、基礎力と応用力を身に付けてください。一見難しいと思われるような問題も、基本的な内容を組み合わせれば解答できます。

●入試の変更点

・男女別定員を廃止し、男女合同定員による入学者選抜へ変更します。

・一般選抜B方式Ⅰ期を一般選抜B方式に名称変更します。

・B方式Ⅱ期を廃止し、T方式（薬・生命統一選抜）を新規に導入します。一度の試験で薬学部と生命科学部両方の受験が可能です。

●過去問を公開しておられますか

<https://www.toyaku.ac.jp/admissions/data/past-questions/>

●面接について教えてください

会話の中で論点がしっかりしているか、十分なコミュニケーションが図れるかなどを見ています。本学のアドミッション・ポリシーに合致し、6年間の薬学教育に耐えうる精神力があるのか、これから医療人として学ぶ心構えがあるかを見ています。また、多数ある薬科大学の中で、東京薬科大学で学びたいという熱意を示すことも大切です。

総合型選抜：個別面接10分、一般公募制：グループ面接(4～5名程度)20分、指定校制：個別面接15分

●過去の小論文の形式とテーマ・文字数

課題文を読み、それに対する自分の意見や考えを(400文字程度で)40分以内に記述する試験です。

化学技術の発展や医療に関連した最近の話題から出題します。

〈過去の出題テーマ〉

- ・「リフィル処方箋」が導入されたことから薬剤師に期待される役割を踏まえて、薬学生が大学で学ぶべきこと
- ・若者の大麻乱用が社会問題化していることを踏まえて、薬学生または薬剤師にできること
- ・新型コロナウイルス感染者への中傷や差別を例に、薬剤師として個人の医療情報の取扱いに関して注意すべきこと

●大学独自の奨学金制度

<https://www.toyaku.ac.jp/admissions/expenses/scholarship/>

●地域のアパート・マンションのモデル家賃

5万円～7万円

●オープンキャンパスの日程

○オープンキャンパス

6月11日 7月30日 8月19日～8月20日

大学紹介、模擬講義、在校生インタビュー 等

○ミニオープンキャンパス

7月8日 9月16日 9月30日

研究室紹介 キャンパス見学